

# 苫小牧市観光振興ビジョン【第2期】（案）について ～概要版～

## 第1章 総論

### 【改定の趣旨と目的】

- 第1期ビジョンの取り組みを継続しつつ、新たな取り組みを実施
- 取り組むべき方向性を明確にする
- 交流人口の増加による地域経済の活性化

### 【位置づけ】

- 苫小牧市総合計画（基本構想：第7次基本計画）に基づく
- 国や北海道、本市の関連計画との整合性を図る

### 【計画期間】

- 5年間  
2025（令和7）年度～2029（令和11）年度

## 第2章 苫小牧市における観光の現況と課題

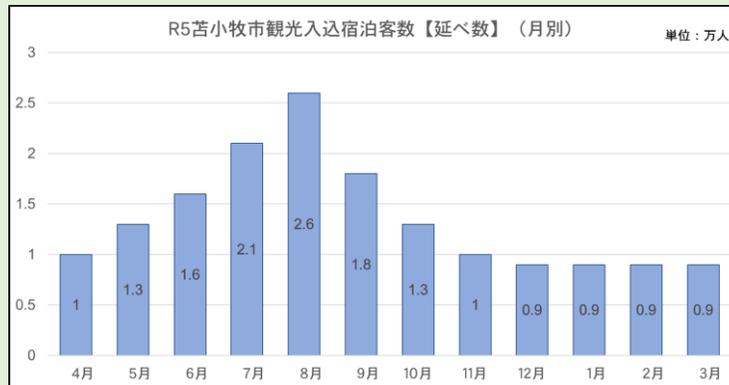
### 【観光入込客数】

- 道内客が多く、冬期間が少ない



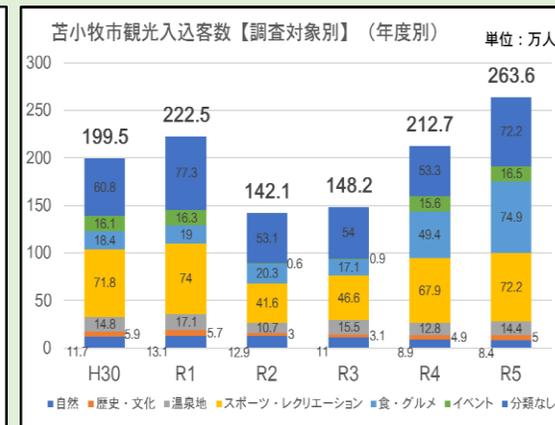
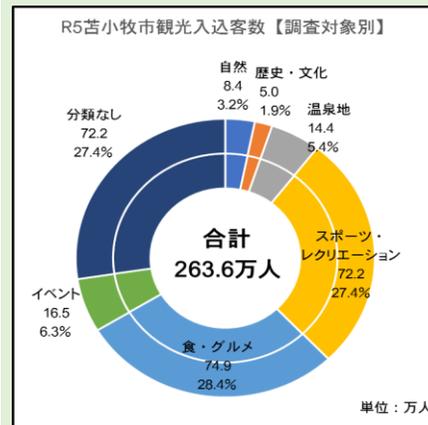
### 【観光入込宿泊客数】

- 冬期間の宿泊客が少ない



### 【調査別観光入込客数】

- 「食・グルメ」目的がもっとも多い（道の駅・ぶらっとみなと市場など）
- 「ゴルフ」目的も多い（全体の9%）



### （宿泊客延べ数）

順位	市町村名	宿泊客延べ数		
		R4	R5	対R4年度比
1	札幌市	1,299万人泊	1528万人泊	117.7%
2	函館市	353万人泊	393万人泊	111.3%
3	釧路市	125万人泊	126万人泊	100.9%
4	小樽市	104万人泊	113万人泊	127.8%
5	帯広市	88万人泊	108万人泊	104.0%
25	苫小牧市	16万人泊	16万人泊	99.3%

### 【傾向と課題】

- アクセスに優れているが、宿泊客が少なく「通過型都市」となっている
- 冬期間（12月～3月）の観光入込客数の割合が低い
- 既存の観光資源の魅力向上を図るとともに、新たな魅力を発掘し観光入込客数及び冬期間の宿泊者増を図っていく必要がある



# 苫小牧市観光振興ビジョン【第2期】（案）について ～概要版～

## 第3章 基本方針と評価指標

### 【基本方針】

- (1) 地域の魅力の有効活用  
➤今ある観光資源の魅力向上を図り、魅力ある観光地づくりを進める
- (2) 観光推進体制の強化  
➤観光客と接するすべての者が一体となり観光振興を推進
- (3) 新たな魅力づくり  
➤新たな地域の魅力につながるよう様々な仕掛けを展開

### 【評価指標】

➤基本方針に基づき、観光の質の向上を目指し3つの指標を設定

指標 ①	目標 (R11)	参考
苫小牧市観光入込客数	310万人	R5実績 263.6万人

指標 ②	目標 (R11)	参考
各種イベント観光客動員数	58万人	R5実績 54万人

指標 ③	目標 (R11)	参考
苫小牧市観光入込宿泊客数 (延べ数)	17万人	R5実績 16.2万人

## 第4章 主要施策

目的	基本方針	主要施策
交流人口の増加による地域経済の活性化	地域の魅力の有効活用	地域資源の魅力向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 豊かな自然環境の情報発信</li> <li>② 産業観光の推進</li> <li>③ 苫小牧港のおもてなし強化</li> <li>④ 食のブランド化</li> <li>⑤ インバウンドの拡大</li> </ul>
		各種イベントの開催
		情報発信の強化
	観光推進体制の強化	MICE誘致の推進
		サステナブル・ツーリズムの推進
		広域連携の推進
新たな魅力づくり	地域特性を生かした観光の魅力づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>① スポーツ施設の有効活用</li> <li>② 文化施設の有効活用</li> <li>③ レジャー施設の有効活用</li> <li>④ インフラツーリズムの推進</li> <li>⑤ コンテンツ・ツーリズムの推進</li> <li>⑥ 観光資源の連動</li> </ul>	

## 第5章 推進体制

➤ビジット苫小牧観光会議を中心に、関係団体等と連携しながらまちぐるみで推進

- 1 市民の役割 ～ ・本市の魅力を発信する重要な担い手。地域の魅力づくりへの協力
- 2 観光事業者の役割 ～ ・地域の魅力を有効活用し事業活動を展開  
・観光協会や行政、関連機関等との幅広い連携
- 3 観光協会の役割 ～ ・観光客の誘致、観光施設の運営、観光事業の健全な発展の推進
- 4 行政の役割 ～ ・市役所内部における観光関連部署の連携を強化するとともに、観光事業者や民間事業者等との連携を深め、観光推進体制を強化  
・国や北海道の観光施策と連携した施策の展開や広域連携の強化